

貞丈雜記

三之上

太政官文庫			
和	一	二	三
書	五	六	八
門	獅	函	架
	三	二	冊

內閣文庫			
和	一	二	三
書	五	六	八
類	號	冊	架
	二	二	函

內閣文庫	
番號	和 11568
冊數	32 ( 5 )
函號	212   17



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

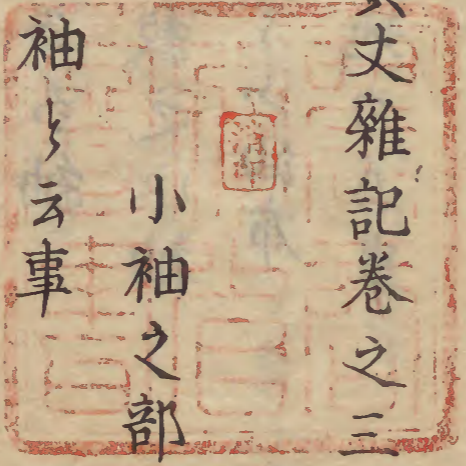


© Kodak, 2007 TM: Kodak





貞丈雜記卷之三



小袖之部 目錄

- 一 小袖と云事
- 一 おり筋之事
- 一 紅格子之事
- 一 紅梅之事
- 一 紅筋之事
- 一 腰わらひ此の<sup>ニケ</sup>免<sup>条</sup>
- 一 家之定紋

雜記三

- 一 練締之事 <sup>三ヶ条</sup>
- 一 格子之事
- 一 きどみす乃事
- 一 ぬき白の事
- 一 むと川まぜの事
- 一 小袖ぬき之事
- 一 織物之事

目一



- 一 装束下乃小袖
- 一 八徳乃事
- 一 足袋之事
- 一 たゞの織物
- 一 布川々人ほむぎ
- 一 かけもえき
- 一 ありあ袖
- 一 無紋之小袖
- 一 せうふ油布
- 一 紅地白乃事
- 一 胴服之事
- 一 羽織之事
- 一 御小袖と御服之事
- 一 鳴織物
- 一 加賀梅染
- 一 遠江あうぬ
- 一 丸すゞ
- 一 かつん色の事 ニヶ条
- 一 たうぬの事
- 一 箔もやう事

- 一 襟をあげばく事
- 一 ニッ襟三ッ襟よ着は事
- 一 大ありよ着
- 一 木綿之事
- 一 板の物と云事
- 一 とのゐもの事
- 一 むしらの事
- 一 もくばき之事
- 一 女の帯古今相透
- 一 幸むし乃事
- 一 五人をきき事
- 一 僧綱らぶ之事 圖
- 一 がうんと云事
- 一 唐織物と唐織
- 一 婚禮葬禮白小袖
- 一 出物人々之事
- 一 蒲團之事 ニヶ条
- 一 合羽之事
- 一 産衣之事
- 一 振袖留袖之事

一下にカマ下み帯

一肌力帯

一犢鼻禪之事

一手綱乃事

一あらしり染

一白衣之事

一頭巾之事

一白かゞゞの事

一紋縫目付

一目結の事

一ぬんごりみ事

一女のたふさぎの事

一今木之事

一取染之事

一かたき乃事

一染付小袖の事

一あゆみ頭巾

一袷履目花色小袖

一段金と云事

一村濃之事

一ちろ濃の事

一よめ君衣装之事 圖

一筒袖之事

一みどり色乃事

一うす紫の事

一ちろど色

一真紅

一いろこ形

一腰巻之事

一衾之事

一額纏乃事

一襦袢之事

一滋目結之事

一うれあるの事

一あけと云事

一薄墨色

一うちわけ乃事

一小袖一重と云事

一寶盡し

一かつきの圖

- 一 腰卷之圖
- 一 天子御紋之事
- 一 ねり色給
- 一 紙衣之事
- 一 家の紋と云事
- 一 ちんぎ色の事
- 一 嶋まりの事
- 一 卷染之事
- 一 きむらぎと云事
- 一 小児綿入不着事
- 一 うらおき物
- 一 十九乃布
- 一 花の事圖
- 一 大褂ウキオホウキ小褂ウキコウキ衣キヌ袖スリーブ
- 一 あざぎ色二品ある事
- 一 ちり衣之事
- 一 帷子のつきかき
- 一 ちり色
- 一 奥布
- 一 上古結四品有事

- 一 袖がりの事
- 一 やまと帯之事
- 一 時服之事
- 一 望陀布
- 一 六丈細布
- 一 綿入衣服
- 一 赤鳥乃事圖
- 一 摺の小袖
- 一 ちりけ色
- 一 大身かひり之事
- 一 素服乃事
- 一 宿衣之事
- 一 八丈絹
- 一 帖絹卷絹
- 一 袖あひ事
- 一 染色の事
- 一 小袖を丸物と云
- 一 無紋之小袖
- 一 かつまり筋
- 一 紺

- 一 升頭巾
- 一 両々れおぬ筋
- 一 かいきりりと云事
- 一 ぬき白の事
- 一 目結鹿子
- 一 附帯之事
- 一 重陽小袖之事
- 一 紫裏之事
- 一 けのひの帷子
- 一 みと山
- 一 地赤地黒地白
- 一 すがとんの事
- 一 段乃物
- 一 朽葉色檜皮色
- 一 茶屋染之事
- 一 たすき乃事
- 一 不けの小袖之事

烏帽子之部

- 一 古の烏帽子之事
- 一 縁塗乃事
- 一 風折えぼり
- 一 平禮
- 一 梨子打
- 一 柳さび
- 一 上古の折烏帽子
- 一 小やゆの事
- 一 さぶの事
- 一 立あぼ
- 一 多ぼりの眉事
- 一 軍陣もみあぼ
- 一 引立
- 一 横ちび
- 一 今乃折あぼ
- 一 てうげの事

一 小田ひの仕様 圖

一 小田むつづけの車

一 紫皮のあほりうけ

一 てつづけうけの様 圖

一 長小結の車 ニヶ条圖

一 折烏帽子の時の装束之車

一 むらび寶色

一 細あほ 圖

一 横さし折あほ 圖

一 あほり針

一 あほりの筒の車

一 てづ掛と急河掛と之車 圖

一 赤革の烏帽子うけ

一 組ゆひる烏帽子うけ

一 打うけあほ

一 澁ぬりあほ

一 公方様御烏帽子

一 軍陣烏帽子 圖

一 引入あほり之車

一 あらりの烏帽子

一 長あほ

一 立烏帽子恰好

一 立あほ名所

一 長小結黒皆と之車

一 烏帽子あささの車

一 あほりぬり様の車

以上

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the title '貞丈雜記' and various entries.

貞丈雜記卷之三

小袖類之部  
伊勢貞友  
千賀春城  
岡田光大  
門人  
同  
技

一 小袖之云事上古ハ装束の下ニ着ケル衣服ウキキを小袖コソドト云  
袖を大オホキキノ袖ソドト云フ也也ヲトモモト云フ也  
袖の大オホキキノ袖ソドト云フハ常ニ衣服イフクを小袖コソドト云フ也  
切キノ物モノありキト云フモ袖ソドを小袖コソドト云フ也  
ハ皆小袖ありト云フ入イルモト云フ也小袖コソドト云フハ也



あり也

一 福里ぬきと云ふは福の名あり福の字を系を生糸にして  
ぬきを糸の糸より織りたる物故福のぬきと云也  
此ハ文字ハ練緯<sup>子リヌキ</sup>と書くべし其の糸も昔より練<sup>子リヌキ</sup>  
糸も書来れり昔ハ文字ハ吟味もあらず書き用ゆる  
多し此は福のぬきと云ふは福のぬきの糸の糸  
玉ぬきと云ふ二の品あり云々のぬきぬきを今ハ  
らの糸と云ふの糸は福のぬきを今ハの糸と  
云ふり也此ハ云々の糸と云ふの糸の糸と云たる  
を今云々の糸と云ふと云ふあやまり也

尺素柱末ニ練緯  
トアリ

一 云々福のぬきハ昔ハ男も女も着る物也の糸は  
ぬきぬきハ男の着る物也あらず御成河牙古実と云  
の糸乃事男着の糸よりくる人の自然の糸なりんづ  
る能ハ女房着の糸ハ五月五日の午の時  
まづめハ此の糸は後ハ此の糸と云ふ

貞丈云今ハ將軍家より御定より侍従の上ハ云々  
らを用をせしむるハ此の糸を用ゆる也云々の糸ハ  
其時代ハ御定より事あるは此ハ此の糸  
一 福のぬきハ此の糸ハ此の糸ハ此の糸ハ此の糸ハ  
ぬき向あどの糸ハ此の糸ハ此の糸ハ此の糸ハ



藤中旧記云紅梅  
又キノ口井八マ  
テメシム

貞順女房衣装次  
才云ひとりつちまぜ  
とへくきぐよの  
筋と又うすきべ  
みのすちとを二  
まぜて飾りの

一これ赤筋と云六地色ハ何れも紅の横筋を織る  
佛供古実云紅筋の事男八十四五歳までよといふ是  
も織筋の内也

一ひまつぎざともあるにといふも云紅梅の筋  
とぬき白の筋と一ツまぜ織る紅梅とぬき白とまぜて織る佛供古実云これか  
き石汁可有若用い女房衣年あけても用さ  
右うらうらより下皆初りぬきハ織物也是ハ織物と  
云也佛成次才古実云男は此織物あけりんずるを  
まづく但此下いへん思ひ也云織筋と云ハ織物の部  
まハ入る也蜷川記云初りすぢたふ老くるるよりさよ

とゞす似合いやうよおしせりてあつ

一今腰うらり腰あきあづ〜の〜名の腰は計筋を付  
添ハ古の織筋を腰まをる織る也古ハ〜一うらり腰  
あきあづ〜云事ハ一廻ゆる筋を織り〜あり

一今世婚禮の時腰うらり腰あきあづ〜云名乃輿コり  
うらり輿あき〜るふ似〜る或忌〜る無地の〜めと〜る物  
を忌す〜る無地の〜めと〜る物筋を織るぬ初りぬき  
也昔ハ腰うらり腰あき無地の〜めあ〜る事ハ者カハ  
あうり〜也末の世又〜るやうの事を初りわづ法式  
乃初〜ある也

一 小袖ぬきとて古ハ殿中カレガクのみ私シもあつは六レ様ヤク樂ガクよ能ノをさせシて酒宴シユエンあつば小袖をぬきテ猿サ樂ガクよ之レ良トする事也

一 家の定紋テウモンとて物ハ本ハ旗幕ハタマクあど付ツける事也素ス襖アツヒタシ垂ヒタシ小袖あどトハ家此紋付イハの事もあり外ソトの紋付モンツケ事もあり妻メケ々装束キウソクの部クは記キす又余アノ々々記書キガキ云クハ縁御服ヨクフクと云ハ織物オリモノ色御服イロヨクフク不ク定ヂヤウ白シロきキあやア又マタハあ屋アヤ法ハフフきキを記キす色イロと云は染シメて御服ヨクフクあトきキあアどト付ツける事也  
一 舊キウ記キは織物オリモノと云ハ紋モンぐクを織オリける也鋪フ費ヒもモうウくクあどトを織オリける織物オリモノと云ハ事ハ前マヘは記キす又マタく織物オリモノと云ハ

古代白小袖ト云ハ手絹也

唐カラより渡りワタリくる織物也オリモノ物モノとあトハ事也  
一 装束キウソクの下ノは男オトコする小袖コタビの事余アノ々記書キガキ云クハ大オホくクびビぐグの耐ナ必カナラ白シロき小袖コタビを男オトコぶク一ヒト緒イテありアリ一ヒト御成ゴナリ次第シツブ古コ定ヂヤウ云クハヒト打ウチ比ヒ射シヤ柄カマド物モノハヒト名ナハヒト又マタ云クハヒトさサのノ下ノはヒトぬヌぎギすス小袖コタビハヒト折オリすスぢチもモ不フ苦クハヒト折オリ縮チヂムハヒト糸イト書カキはヒトあアるルあアどトの時トキ無ム紋モンの小袖コタビ也ナリと云クハヒト用ヨウ害ガイ記キ云クハヒト給イタハヒト緒イテの給イタをヒト糸イトハヒト也ナリ又マタ男オトコ比ヒ幕カマドのノはヒト世ヨハヒト白シロきキと云クハヒト也ナリ

貞順記ニ胸服ノ一見エタリ又次羽織ノ事アリ

一 胸服トウフクと云ハ今の羽織ハネオリの事也胸ムネはヒトちチうウちチのノ糸イトハヒト短ミヅカきキのノ胸服トウフクと云也道服ミチフクと云書カキけケるル糸イトハヒトあアるル

雑記三

五

永享六年二月廿七日又七夜御祝山名若本門督入道常照通服ニテ参勤御産所日記ニ見コレハ道服御免ニテ着セラレ也

ありきぬのち装束ノ部ニモ記

あり也道服と云物ハ別也道服ハ腰より下子<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>ずあり  
 了僧の衣ハ似る物也出家大納言以上の人同くあ<sup>ら</sup>ず  
 世々物也<sup>た</sup>ん<sup>て</sup>を<sup>ら</sup>ぐ<sup>り</sup>下<sup>ハ</sup>白袴あり  
 一ハ徳と云物あり蟻川記<sup>ハ</sup>か<sup>ニ</sup>衣の上<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>ハ</sup>又<sup>シ</sup>も  
 うとぎぬあ<sup>ら</sup>ず打<sup>つ</sup>け貴人<sup>ノ</sup>以前<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>ハ</sup>事<sup>ト</sup>い<sup>は</sup>す<sup>ハ</sup>之<sup>ノ</sup>  
 以也とありハ徳と云<sup>ハ</sup>胸服<sup>ノ</sup>事<sup>ト</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>形<sup>ト</sup>十徳<sup>ニ</sup>似  
 ころ<sup>ハ</sup>徳<sup>ト</sup>兵名<sup>ニ</sup>付<sup>ス</sup>成<sup>ル</sup>也<sup>ト</sup>  
十徳のちハ装束の部ニモ記  
 ぬと云<sup>ハ</sup>草羽織<sup>ノ</sup>事<sup>ト</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>  
 一羽織<sup>ト</sup>云<sup>ハ</sup>カ<sup>ハ</sup>鳥<sup>ノ</sup>羽<sup>ヲ</sup>織<sup>ス</sup>る<sup>カ</sup>名<sup>也</sup>とい<sup>は</sup>す<sup>ハ</sup>之<sup>ノ</sup>  
 此あ<sup>ら</sup>ず<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>鳥<sup>ノ</sup>羽<sup>ヲ</sup>織<sup>ス</sup>る<sup>カ</sup>衣服<sup>ノ</sup>事<sup>ト</sup>日記

武雜記云足袋の  
 百履中ハハハ  
 用<sup>ハ</sup>テ<sup>レ</sup>サ<sup>ル</sup>物<sup>ト</sup>  
 也<sup>ト</sup>公<sup>ノ</sup>家<sup>ノ</sup>ニ<sup>ハ</sup>あ<sup>ら</sup>ず  
 ラ<sup>ル</sup>也<sup>ト</sup>雜<sup>記</sup>ニ

子<sup>ハ</sup>足<sup>ニ</sup>す<sup>ハ</sup>小<sup>ノ</sup>袖<sup>也</sup>と<sup>い</sup>は<sup>す</sup>上<sup>ノ</sup>と<sup>い</sup>は<sup>す</sup>あり<sup>け</sup>ら<sup>れ</sup>た<sup>ノ</sup>名<sup>也</sup>と<sup>い</sup>は<sup>す</sup>  
 一と<sup>い</sup>は<sup>す</sup>放<sup>ノ</sup>字<sup>也</sup>は<sup>ア</sup>川<sup>ノ</sup>も<sup>ヨ</sup>む<sup>ノ</sup>字<sup>也</sup>上<sup>ノ</sup>より  
 一帯<sup>セ</sup>ず<sup>カ</sup>ち<sup>カ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ハ</sup>も<sup>ト</sup>書<sup>テ</sup>は<sup>お</sup>り<sup>と</sup>い<sup>は</sup>す<sup>ハ</sup>書<sup>テ</sup>は<sup>お</sup>り<sup>と</sup>い<sup>は</sup>す  
 一車<sup>ハ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ハ</sup>書<sup>テ</sup>は<sup>お</sup>り<sup>と</sup>い<sup>は</sup>す<sup>ハ</sup>例<sup>也</sup>也<sup>ト</sup>一<sup>ハ</sup>羽<sup>織</sup>ハ<sup>近</sup>代<sup>ノ</sup>羽<sup>織</sup>  
 一古<sup>ハ</sup>胸<sup>服</sup>と<sup>い</sup>は<sup>す</sup>也<sup>ト</sup>  
 一足<sup>袋</sup>ノ<sup>事</sup>蟻<sup>川</sup>記<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>殿<sup>中</sup>ハ<sup>脚</sup>袋<sup>ハ</sup>り<sup>と</sup>い<sup>は</sup>す<sup>ハ</sup>也<sup>ト</sup>一<sup>ハ</sup>足<sup>袋</sup>  
 以<sup>テ</sup>脚<sup>袋</sup>ノ<sup>時</sup>ハ<sup>必</sup>上<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>足<sup>袋</sup>一<sup>足</sup>中<sup>ハ</sup>又<sup>ハ</sup>入<sup>道</sup>同<sup>服</sup>ハ  
 以<sup>テ</sup>免<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>記<sup>ス</sup>る<sup>ハ</sup>人<sup>ノ</sup>内<sup>服</sup>も<sup>主</sup>人<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>免<sup>ル</sup>也<sup>ト</sup>一<sup>ハ</sup>免<sup>ノ</sup>皮<sup>ノ</sup>と<sup>い</sup>は<sup>す</sup>之<sup>ノ</sup>  
 免<sup>ノ</sup>皮<sup>ノ</sup>と<sup>い</sup>は<sup>す</sup>之<sup>ノ</sup>皮<sup>ノ</sup>と<sup>い</sup>は<sup>す</sup>不可<sup>用</sup>但<sup>カ</sup>陣<sup>ノ</sup>時<sup>ハ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>と</sup>い<sup>は</sup>す<sup>ハ</sup>

于健也足袋ノ如クニテ括の事ト云ハハカナル也  
 室町記云新制縁  
 但以後可被免許  
 為病并者蒙免  
 河用白草屨草屨  
 二見タリ又足袋  
 二摸樣付シモ有  
 日記ニ寛正七年  
 十二月廿二日所  
 所被下文ツタ歳  
 卅二也ト見エタ  
 リ故トハモヤウ  
 ノ事也ヤツタ  
 二伊勢守貞國ノ  
 画像藏メタリ其  
 像ニ小故ノ足袋  
 ハキシテ見エタ  
 リ

皮の足袋へるゝ武雜記卷、十月朔日より支書半同者翌年の二  
 月廿日あり但之月の事不昔い  
 貞丈云古ハ革足袋也今の本條足袋古ハ一八九十  
 年計ハ以參進ハ女ハ紫革の足袋を云成時ハ  
 ち由古老乃物語一け也  
 一歩小袖と云袖りぬき此事也又脚服云常の小袖の事也  
 一旧記又た云織物とあるハ練愛の事也一こ  
 一の類を云袖りぬきの事也又記ハ唐の織物ト對  
 ち乃織物と云用害記云この物り物の事也

今ハ丈嶋ヨリ出  
 ス借ハ昔ハ無ク  
 コハニ云ハタト  
 へニ云也嶋ヲリ  
 物ハ外國ノ嶋ヨ  
 リ出スヲ云

一説云南都法隆  
 寺僧徒ナト着ス  
 ル北條トテ黄色  
 ニ染タルヲ用ル  
 トフサアラハ元  
 ハ唐物ニテ後ノ

一嶋物り物ト旧記ハあるハ諸方の嶋より織出ス物あり  
 今ハ丈嶋より織出ス也筋を織へる物也  
 貞丈云今織物の筋あるを嶋と云ハ嶋より織出ス物  
 筋を織へる嶋と云あるハ今ハ筋の事を嶋と云  
 也

一和川今人法むき云物旧記ハあり此絹ホツケも存又不  
 ちんも存此の方ハ外國より出ス物也一脚成次  
 切古実云今人の小袖の事也別々物ハ禁割也

色黄ナルベレ依  
テ大和ニテオリ  
レモ色黄ナル故  
北俣ト唱ルナル  
ヘシ

梅染赤梅黒梅三  
品ナリ梅やあぶ  
み了さゆと湯と  
みハ梅をえくカ  
敷を染ちハ赤  
梅之度除くア  
しあるハ黒梅也

鎌倉年中行夏ニ  
云布小袖ハ是ル  
事ナレト遠玄也  
其以下ハ皆カテ  
萌黄也云々

百あけんもめいふまどくふにふ物と云唐より渡る物  
を云也条々圖書云ふ同く人袖の小袖紋の付たる不  
苦ゆ云々

一加賀梅をぬと云ハ加賀國より出ん梅染の絹也梅染と云  
梅や赤梅と云物より染る也赤き色は黄<sup>キバ</sup>なる色也  
一うげもえぎと云深色旧記にあり今云ふ色あんと云  
款ありと云宗五一册校書にうげもえぎと云て出人を  
み了るを色をもんをつげもえぎと云て深と云  
小袖のひともありもえぎはあふと云て色色の類  
なり

伊房筆法云す  
一のうらまへに  
一とハ裏物  
一とハ一重に  
一とハ二重に  
一とハ三重に  
一とハ四重に  
一とハ五重に  
一とハ六重に  
一とハ七重に  
一とハ八重に  
一とハ九重に  
一とハ十重に  
一とハ十一重に  
一とハ十二重に  
一とハ十三重に  
一とハ十四重に  
一とハ十五重に

一遠江ありと云事旧記にあり遠江より出るあふ梅染の  
絹也色あか<sup>アカサ</sup>と云草は根より染る也  
一あふ袖<sup>ツメヤ</sup>と云物ハ推名と云より出る袖也推名ハ河内  
トある也  
一丸き<sup>ツメヤ</sup>と云表裏ともよしと云小袖を云捨あり  
一無紋の小袖と旧記にありと云今云ふ此の小袖と云同  
一家の紋をも小紋あはとも染す事の遠江を云  
一からん色と云黒き色を云古異國より褐布<sup>カウフ</sup>と云物  
渡りたりと云色黒きと云色あり一と云黒色を云ら色共  
うは色を云ら云<sup>カウフ</sup>褐の字を云ら川ともうららともよむ也

播磨國饒磨郡印  
南野里ニテカチ  
色ヲ添シナリ  
夫木敷ニ信実朝  
目秋ニそり候キ  
亦ありとありつ  
るある富ツ川あ  
る富ツ川ノ饒磨  
ありん  
又夫木敷ニ中務  
々のみこの秋ニ  
あり候あるツツ  
みくまのり  
ぬめり色ありく  
のきくをこひつ  
又言秋ニ  
すめりありする  
すめりありする  
よりもぬきくは  
るこそきこり思  
母

福布ハ今の羅紗ラシヤの類カウも毛織也カウ川ともかちとも云  
を勝負カチマケの勝カウと云事カウは云ありて昔六軍陣モツハラは專カウ以色カウを  
用ひたり也うち色と云を俗ヤサより人色と云也

一或説シカマ古様慶國饒磨の里ヤサの藍ヤサを赤く染せり色  
一しる深物を染しり古歌は  
我亦六ある女のうち候ありて昔ありては  
あはれせりあるものもあはれしり婚禮ケシは必ヤサうり人色  
用と云入り旧記は六軍陣は用と云の八色と云は  
れは用と云事八色と云事と云色ある如婚禮は用は  
もあはれあるものもあはれしり事也と云どもは色限

天文十一年日々  
記云七月十三日  
貴殿に照布一端  
私に油布一端云

て必用と云法は

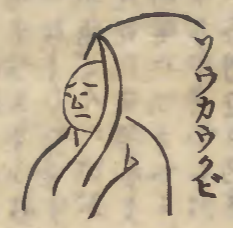
- 一せうぬあはれぬの物条は書あり照布油布二  
名の布の名也惠林院殿以代永正六年十二月廿四日宗護  
岐寺へ書する御内書の業文は就字儀太刀一腰持  
子二端照布三端油布二端鳥目三千疋列布は記候  
表ひせしあり照布も油布もひうりある布を詳ありす  
一たぬの条は圖書あり御成込は古実いぬぬの  
あり同物也唐布也唐より染る布也  
一ころちあるのうさひは紅地白也地白のうさひは  
紅も小飲あはれを云

ウんぢありの  
兼中旧記云七月  
一月何をもあ  
きよきこんだ  
あはれもい  
たひとありこ





附ハ長下ハ勿論の  
 奉天子セ下下  
 一ニ急リ又ハ下  
 衣冠の射ハ之位  
 以上ハ二ツあり  
 位以下ハ二ツあり  
 也 額ニ一ツあり  
 トハイクワ着ル  
 トモ上着ノエリ  
 ニテ下ノエリヲ  
 包ミテ着タル  
 マラニ見セテキ  
 ルヲ云也



一ハ尾篭也ト条々破書ミ又諸國書条々ト物々  
 條々ト十トノ内ハ五里を折テミ也六十より外ハ  
 うううトミミ也ト有るうううトびト小袖のあり  
 を折トすト有るもの也あうう成爲ト折ぎト也  
 うううハ僧細也僧細ト僧の位也法橋法眼法印を  
 僧細ト云位ある僧ハ五里ト云衣ト云衣のあり立  
 ト頭をううト折ミト有る也小袖のありを折トす  
 ト有るハ僧細の衣ト云形ト云ト有る也  
 うううトびト也  
 一大ありト有る小袖の形を度々あけて有る也

一女の小袖なむう人ト有物あり藤中旧記ハ四月六日  
 一人ト有物ハ細ト有るト有ぬハ物ありト有る  
 あううト有るト有るト有るト有るト有るト有る  
 禊ト有る金銀の筒ト繪極ト有るト有るト有るト有る  
 付ト有る禊ト有る也

一木綿ハ桓武天皇此州延暦十八年三河國ハ崑崙國の  
 人ト有船ト有るト有るト有るト有るト有るト有る  
 在諸國ト有るト有るト有るト有るト有るト有る  
 永祿年中ト有るト有るト有るト有るト有るト有る  
 又徳守ト有る蜷川記ト有る人ト有る袴ト有るト有る馬具寸法

夫木綿ニ衣笠内  
 大目の款ニ  
 ありト有るト有る  
 ト有るト有るト有る  
 人ト有るト有るト有る  
 ト有るト有るト有る  
 是木綿をよめる  
 款也木綿の種乃  
 是也ト有るト有る  
 ト有るト有るト有る

記もめんめんあまういのみ本綿と書てもめんといよ  
む也くむ五音返すお古いめんといひ也

一か織物とかおまも別也か織物をか物とも云也キニ

ラントンスレユスアヤニキ  
補修子縹子綾錦ト外きて唐より渡りたる物に皆織物

一也か織は日あや織也地は生糸を紋う五色の糸糸  
金糸等を織りて浮織である物也唐のころ織物有  
かりかりと云也

一板の物とも巻物と對して云名也織物を巻くとも巻物  
ともめんよりす板を入るむくたるなる板の物とも  
也武雜記は若のめんを巻いて多々なるもの今ハ

巻が人すまのいありぞんすも上古の板の物ありしは  
は巻物もありしるむかたりふれ板を入るむく  
とるむか何れも板の物ありしはあかり出る板の物  
とるむく織のものを板の物と一層しる  
板ともうすき板の物ありき板の物とも草もあは  
織の厚さともすきさなる也

一婚禮は白き小袖を用ひ草薺津の學心也今世は  
人ありはあやまり也薺津は白色を用ひる時  
あまの美羅彩色をもあす物をもあはるるを  
は知也婚れは白色を用ひる婚れは人倫の大か白を

白色の大巾也故は白色を用ふ也用ふ所は白色不同  
をまともな意に同くうさる也又産の村白色用ふか意  
も婚禮に同く

一このぬまはとも今ヨギの夜具ヨギのゆめ也又ねんとも云也この  
ぬまは袖の下ねびありあの服よ七寸のぬまを付也  
婚入記あり名合へて後居ハ武雜記の貞丈抄記也也

このぬまは袋よ入る也  
それをこのぬまの袋と云

一あおんとも云はしぬまは事也帯の小袖の形ありゆめさ  
けをハちくす也このぬまの一名をねんとも云このぬま  
ゆめハちくすかおんとも云也

女房等は云云  
あつまるぬま色  
く初るぬまはま  
りものぬ物ニハ  
る物んをニハ  
ニハゆら二あ  
る一ハ月より  
九月までハマの  
ぬまのぬまあり  
きんすぬま  
ろのぬまあり  
うらぬま也

一むらうとも云は今子ガの寝所子ガの事也其の表はゆめをさる  
る也古歌にさるすあやあゆゆのさるらにあゆめ  
多のハゆめ也さるらゆめのゆめ糸の寝書ハ方極ハ寝所ハ  
御座をさるらハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ  
一ゆめありハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ  
一のゆめありハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ  
りのゆめありハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ  
貞丈抄記スルハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ  
一今の世夜具の内ハ蒲團フツンと云物あり古ハ今ハの寝所ハ  
蒲團フツンと云ハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ今ハの寝所ハ

東鑑ニ股解トアリ  
リモト又キトヨ  
ムヘシ宇治拾遺  
巻九有五条ニ  
けとくおせら  
くくおのあ  
ひげまのこ  
十づりあり太  
刀さきもくぬさ  
たきへいげき  
リニ  
宗五祀ニモ  
ばきとあり

東鑑ニ股解トアリ  
リモト又キトヨ  
ムヘシ宇治拾遺  
巻九有五条ニ  
けとくおせら  
くくおのあ  
ひげまのこ  
十づりあり太  
刀さきもくぬさ  
たきへいげき  
リニ  
宗五祀ニモ  
ばきとあり

何やまの也夜のまねをいふ家まよふ家のおまゝも  
すづりともあり由也古はあまのまゝありあまの寝る

あまの寝る又調度  
あまの寝る又調度

一 中帯と云ハ白  
小袖やうき  
けせぬまあり

一 蒲團の事右の事記す如く海産の事也東山殿の同朋相  
阿弥の記しる物飾書は西指菴新納戸の内は曲録  
上は蒲團並の事あり是海産の事をさす也

義經記卷ノ七直  
江の流ありおひ  
さかきせし物  
八尺のうけおび  
五尺のうけおび  
ねあみのさきま  
とありはうけお  
びハ今のさけお  
びあり

一 合羽カッパ云物古くあり物也合羽は近代の物也ソレハ侍も兼  
祓衣ハラヘも兼也奈に閑書は御供の衣もさすをぬいといあり  
うのまゝも河を阿蘭陀の河也阿蘭陀の人の上はあはる衣服  
まうのまゝも物ありその形をまゝ作りしを合羽カッパと云  
羽と云指し是をうのまゝもさすいづは後ハ袖を付する合羽を  
作り出さし指のまゝもさすいづは後ハ袖を付する合羽を

一 一方の女乃帯今も帯のめくさすも度き物ありはあはる由帯  
あまの物ありはあまの帯也貞衡云さけ帯ハ裳袴モハカマと云  
物の帯も同くはあまの也いづもあまの也中なる子の紙を  
入る上臈ハ惣物合まのき也はあまのあまの腰を色

ありまさきせす  
 さうはより中  
 帯も三也さげ帯  
 をあつてのすけ  
 げずいあま  
 小さく帯のめく  
 けふ也かゆハ  
 けうまもあど  
 る

をうらうす紅梅あぶらめりあふる分金みぎも也  
 裳袴もろ家上觸装束の上は裳もろ物をあす也裳を  
 免す村忌あす袴を裳袴もろ也郷乃袴のよ也は袴  
 の下はすの帯も同いふさけ帯を作も也金もろ  
 きもろ一面の金もすのり也帯もろもろあつてすひ下  
 海也は帯も地ハあつたす板あつてあつて金もろ  
 きもろあつてあつて織す成り一条の裳書もろ古帯も  
 ころりもろい慈照院殿代よりころりもろりもろあ  
 ち云ころりころりハ一幅をころりもろあつてあつてあ  
 ちもろ笑穢男女もろあつて也女の袴の裳装束  
乃新もろあつて

一 ころりもろろろ本名ころりあつて也産衣と書也ころりあつてハ小児  
ヲニヤウノカキ  
 誕生時陰陽師の作付ころり小児の性合をヨキ吉きを  
 ころりころりころり色もろ降ろろろろろろろろろろろろ  
 あつてハ白と空色そくをろろろとを角の法也貞衡云近世系  
 もろ花もろあつて也ころりころりあつて也

一 婚禮の村あつて君の衣裳ハ上ウハギもろあつてころりあつてを織もろ白  
 き後を免も也郷入記もろあつてころりあつてころりあつて白  
 き後もろあつてを向切クギリもろあつてころりあつて衣裳法ハハキ昔もろあつて  
 ころりあつてあつてあつてハころりあつてあつてあつて

一 小袖もろあつて袖もろあつて昔もろあつて也旧記もろあつて

小兒ハ陽氣<sup>子ツキ</sup>はく入<sup>マ</sup>り<sup>テ</sup>身<sup>ミ</sup>の熱氣<sup>ネツキ</sup>をもく<sup>ク</sup>て<sup>テ</sup>病<sup>ヤ</sup>を<sup>ク</sup>ら<sup>フ</sup>  
 り<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>ある<sup>ル</sup>故<sup>ユ</sup>小袖<sup>コタビ</sup>の<sup>ウ</sup>左<sup>サ</sup>の<sup>ウ</sup>服<sup>ウケ</sup>袖<sup>スベ</sup>の中<sup>ナカ</sup>に<sup>テ</sup>通<sup>ス</sup>り<sup>テ</sup>は<sup>カ</sup>き<sup>ケ</sup>あ<sup>ゲ</sup>て<sup>ハ</sup>  
 き<sup>を</sup>ぬ<sup>く</sup>也<sup>ナリ</sup>袖<sup>スベ</sup>を<sup>ハ</sup>ち<sup>を</sup>す<sup>る</sup>事<sup>コト</sup>あり<sup>ル</sup>一<sup>ツ</sup>は<sup>カ</sup>き<sup>ケ</sup>あ<sup>ゲ</sup>て<sup>ハ</sup>  
 簾<sup>ス</sup>中<sup>ナカ</sup>旧<sup>コト</sup>記<sup>キ</sup>よ<sup>リ</sup>も<sup>ト</sup>き<sup>ア</sup>け<sup>ト</sup>事<sup>コト</sup>あり<sup>ル</sup>今<sup>イマ</sup>ハ<sup>ツ</sup>ち<sup>を</sup>  
 ところ<sup>ト</sup>き<sup>ア</sup>け<sup>ト</sup>の<sup>ウ</sup>袖<sup>スベ</sup>の中<sup>ナカ</sup>に<sup>テ</sup>通<sup>ス</sup>り<sup>テ</sup>は<sup>カ</sup>き<sup>ケ</sup>あ<sup>ゲ</sup>て<sup>ハ</sup>  
 あり<sup>ル</sup>袖<sup>スベ</sup>の<sup>ウ</sup>短<sup>ミ</sup>き<sup>ナ</sup>物<sup>モノ</sup>の<sup>ウ</sup>極<sup>キ</sup>まり<sup>ノ</sup>より<sup>テ</sup>次<sup>ツ</sup>別<sup>ヘ</sup>く<sup>テ</sup>は<sup>カ</sup>き<sup>ケ</sup>あ<sup>ゲ</sup>て<sup>ハ</sup>  
 風<sup>フウ</sup>流<sup>リ</sup>より<sup>テ</sup>も<sup>ト</sup>也<sup>ナリ</sup>寛<sup>カン</sup>文<sup>ブン</sup>年<sup>ネン</sup>中<sup>チュウ</sup>の<sup>ウ</sup>比<sup>ヒ</sup>並<sup>ナ</sup>女<sup>メ</sup>子<sup>シ</sup>の<sup>ウ</sup>ふ<sup>ク</sup>り<sup>テ</sup>袖<sup>スベ</sup>を<sup>ハ</sup>尺<sup>シツ</sup>四<sup>シ</sup>五<sup>ゴ</sup>寸<sup>スン</sup>  
 計<sup>ケイ</sup>ある<sup>ル</sup>を<sup>ハ</sup>十<sup>ジュウ</sup>六<sup>リク</sup>七<sup>シチ</sup>歳<sup>サイ</sup>の<sup>ウ</sup>人<sup>ヒト</sup>の<sup>ウ</sup>長<sup>チカ</sup>袖<sup>スベ</sup>を<sup>ハ</sup>尺<sup>シツ</sup>五<sup>ゴ</sup>寸<sup>スン</sup>  
 長<sup>チカ</sup>袖<sup>スベ</sup>也<sup>ナリ</sup>と<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>由<sup>ユ</sup>古<sup>コ</sup>考<sup>コウ</sup>物<sup>モノ</sup>後<sup>ゴ</sup>也<sup>ナリ</sup>今<sup>イマ</sup>ハ<sup>ツ</sup>ち<sup>を</sup>  
 尺<sup>シツ</sup>四<sup>シ</sup>五<sup>ゴ</sup>寸<sup>スン</sup>と<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>ナリ</sup>袖<sup>スベ</sup>ハ<sup>ツ</sup>ち<sup>を</sup>一<sup>ツ</sup>ハ<sup>ツ</sup>ち<sup>を</sup>若<sup>ニ</sup>く<sup>テ</sup>袖<sup>スベ</sup>と<sup>シ</sup>

名<sup>ナ</sup>の<sup>ウ</sup>記<sup>キ</sup>と<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>

接<sup>ツキ</sup>ふ<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>の<sup>ウ</sup>あり<sup>ル</sup>其<sup>ソノ</sup>書<sup>シヤ</sup>ニ<sup>モ</sup>ヨ<sup>リ</sup>  
 テ<sup>テ</sup>料<sup>リョウ</sup>簡<sup>カン</sup>ス<sup>ル</sup>ヘ<sup>シ</sup>源<sup>ゲン</sup>  
 平<sup>ヘイ</sup>盛<sup>セイ</sup>衰<sup>スイ</sup>記<sup>キ</sup>卷<sup>マク</sup>十<sup>ジュウ</sup>  
 徑<sup>ケイ</sup>後<sup>ゴ</sup>布<sup>フ</sup>引<sup>ヒキ</sup>ノ<sup>ウ</sup>境<sup>ケイ</sup>  
 入<sup>イ</sup>余<sup>ヨ</sup>後<sup>ゴ</sup>ハ<sup>ツ</sup>紺<sup>コン</sup>ノ<sup>ウ</sup>  
 下<sup>ゲ</sup>帯<sup>タイ</sup>カ<sup>キ</sup>儀<sup>ギ</sup>儀<sup>ギ</sup>作<sup>サク</sup>  
 ノ<sup>ウ</sup>二<sup>ニ</sup>尺<sup>シツ</sup>八<sup>ハツ</sup>寸<sup>スン</sup>ノ<sup>ウ</sup>太<sup>タイ</sup>  
 刀<sup>タウ</sup>隨<sup>ズイ</sup>分<sup>ブン</sup>秘<sup>ヒ</sup>藏<sup>ゾウ</sup>シ<sup>テ</sup>タ  
 リ<sup>リ</sup>ケ<sup>ケ</sup>ル<sup>ル</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>ワ<sup>ワ</sup>キ<sup>キ</sup>ニ  
 ハ<sup>ハ</sup>サ<sup>サ</sup>ン<sup>ン</sup>テ<sup>テ</sup>髪<sup>カミ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>亂<sup>ラン</sup>  
 シ<sup>シ</sup>テ<sup>テ</sup>ツ<sup>ツ</sup>ト<sup>ト</sup>入<sup>イ</sup>ハ<sup>ハ</sup>シ<sup>シ</sup>  
 下<sup>ゲ</sup>帯<sup>タイ</sup>ハ<sup>ハ</sup>フ<sup>フ</sup>ン<sup>ン</sup>ト<sup>ト</sup>シ  
 ノ<sup>ウ</sup>事<sup>コト</sup>ナ<sup>ラ</sup>リ  
 古<sup>コ</sup>今<sup>イマ</sup>著<sup>シヤク</sup>聞<sup>ブン</sup>集<sup>シュツ</sup>卷<sup>マク</sup>十<sup>ジュウ</sup>  
 馬<sup>バ</sup>藝<sup>ギ</sup>ノ<sup>ウ</sup>部<sup>ブ</sup>ニ<sup>ニ</sup>ク<sup>ク</sup>ヤ  
 り<sup>リ</sup>の<sup>ウ</sup>用<sup>ヨウ</sup>衣<sup>イ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>カ<sup>カ</sup>  
 子<sup>シ</sup>テ<sup>テ</sup>ウ<sup>ウ</sup>サ<sup>サ</sup>キ<sup>キ</sup>ヲ  
 ナ<sup>ナ</sup>ン<sup>ン</sup>カ<sup>カ</sup>、<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>タ<sup>タ</sup>リ  
 同<sup>ドウ</sup>相<sup>ソウ</sup>模<sup>モ</sup>ノ<sup>ウ</sup>部<sup>ブ</sup>ニ<sup>ニ</sup>タ  
 キ<sup>キ</sup>テ<sup>テ</sup>子<sup>シ</sup>リ<sup>リ</sup>出<sup>デ</sup>タ<sup>タ</sup>リ  
 宇<sup>ウ</sup>治<sup>ジ</sup>拾<sup>シツ</sup>遺<sup>イ</sup>卷<sup>マク</sup>十<sup>ジュウ</sup>  
 紺<sup>コン</sup>ハ<sup>ハ</sup>衣<sup>イ</sup>後<sup>ゴ</sup>緊<sup>キン</sup>ノ<sup>ウ</sup>日  
 暮<sup>ス</sup>ミ<sup>ミ</sup>と<sup>ト</sup>ウ<sup>ウ</sup>あり<sup>ル</sup>也<sup>ナリ</sup>

一<sup>ツ</sup>下<sup>ゲ</sup>帯<sup>タイ</sup>も<sup>モ</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>下<sup>ゲ</sup>の<sup>ウ</sup>帯<sup>タイ</sup>も<sup>モ</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>ハ<sup>ハ</sup>小<sup>コ</sup>袖<sup>スベ</sup>の上<sup>ウヘ</sup>は<sup>ハ</sup>結<sup>ムス</sup>ふ<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>也<sup>ナリ</sup>装<sup>ゾウ</sup>  
 束<sup>スツク</sup>を<sup>ハ</sup>あ<sup>ゲ</sup>す<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>ハ<sup>ハ</sup>装<sup>ゾウ</sup>束<sup>スツク</sup>の<sup>ウ</sup>下<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>今<sup>イマ</sup>ハ<sup>ツ</sup>ち<sup>を</sup>  
 也<sup>ナリ</sup>下<sup>ゲ</sup>帯<sup>タイ</sup>も<sup>モ</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>下<sup>ゲ</sup>の<sup>ウ</sup>帯<sup>タイ</sup>も<sup>モ</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>ハ<sup>ハ</sup>古<sup>コ</sup>款<sup>カン</sup>も<sup>モ</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>今<sup>イマ</sup>ハ<sup>ツ</sup>ち<sup>を</sup>  
 一<sup>ツ</sup>ぬ<sup>く</sup>事<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>一<sup>ツ</sup>は<sup>カ</sup>き<sup>ケ</sup>あ<sup>ゲ</sup>て<sup>ハ</sup>又<sup>マタ</sup>手<sup>テ</sup>袋<sup>フクロ</sup>と<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>  
 古<sup>コ</sup>より<sup>テ</sup>此<sup>コノ</sup>名<sup>ナ</sup>也<sup>ナリ</sup>字<sup>ジ</sup>ハ<sup>ハ</sup>擗<sup>ヒ</sup>鼻<sup>ビ</sup>禪<sup>ゼン</sup>と<sup>シ</sup>書<sup>カ</sup>け<sup>テ</sup>也<sup>ナリ</sup>非<sup>ヒ</sup>あり<sup>ル</sup>擗<sup>ヒ</sup>鼻<sup>ビ</sup>禪<sup>ゼン</sup>ハ<sup>ハ</sup>別  
 あり<sup>ル</sup>今<sup>イマ</sup>ハ<sup>ツ</sup>ち<sup>を</sup>房<sup>フウ</sup>州<sup>シュウ</sup>の<sup>ウ</sup>人<sup>ヒト</sup>ハ<sup>ハ</sup>た<sup>タ</sup>と<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>田<sup>テン</sup>舎<sup>シャ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ふ<sup>フ</sup>も<sup>モ</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>今<sup>イマ</sup>ハ<sup>ツ</sup>ち<sup>を</sup>  
 り<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>今<sup>イマ</sup>ハ<sup>ツ</sup>ち<sup>を</sup>あ<sup>ゲ</sup>て<sup>ハ</sup>又<sup>マタ</sup>手<sup>テ</sup>袋<sup>フクロ</sup>と<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>  
 一<sup>ツ</sup>は<sup>カ</sup>き<sup>ケ</sup>あ<sup>ゲ</sup>て<sup>ハ</sup>又<sup>マタ</sup>手<sup>テ</sup>袋<sup>フクロ</sup>と<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>事<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>



あさぎハクリ松  
 してハ少鱈太刀  
 よもぎやせつ  
 女牛ハ赤一  
 条大路を大宮よ  
 リ河原まで行れ  
 ハ東大寺の聖宝  
 あり名来ても  
 ありありあり  
 ハこの四寺の矢  
 底より下於い  
 ころまで大僧格  
 ひくんと云  
 〇先大按タフサギ  
 とハマタフサギ  
 ノキヌとハハ  
 きなるとキヌと  
 を器一とハハ  
 〇サキとハハハ  
 〇延喜式縫殿寮式  
 二袴二腰別文  
 袴二腰別文  
 腰別文ト見  
 リ

字をたももむ也あんどーと云六袂き初也

一 服のおびのりを湯具と云もか名ああす湯風呂入  
 るに袂ぬへいたあさぎをもぬも捨入るもよあ人  
 きさあさぎせす服のおびをい入る也きよ依る湯具  
 と云湯よ入る道具と云事也

一 女のたあさぎををきと云也后宮名目抄云さ  
 ちハ下裳と書也今女の初はゆきと云ハ湯具と云事也  
 一 犢鼻禪の事犢ハさしと云と云牛の子也人の膝は両方  
 らがさああさぎハ牛の鼻ハ似るを犢鼻と云犢鼻は  
 ささぎの短き禪を犢鼻禪と云和名抄云禪方言注

云袴而無袴謂之禪ハカマニシラ キツマタ 史記云司馬相如著犢

鼻禪ハカマ 帝昭曰今三尺布作之形如牛鼻者也此帝昭力注ハ禪ノ形カ牛ノ鼻ニ似タルト云

右和名抄ハ禪ノ字ヲスマシモノ氏千ヒサキモノ氏ヨミテタ  
 フサギト云訓ナシタウサキハ今ノフレドレシ 源平盛衰記宇治川

先陣ノ条ニハダバカマヲカキトアルハ禪ノ支也短キ袴也古人ハ

タカニ十ル時ハ必禪ヲハクナリ禪ノ下ハ  
 ハダノオビアリハダノ帯ノタツナト云

一 毛乃之太乃太不モノ之太乃太不 小禪也ト見タリモノシタノタフサキトハモトハ  
 佐岐一ニ云水子

ふハ禪ノ事ヲ指し云也禪の下おたあさぎと云物之  
 是綿布を禪と總つぎし一幅のきよある紙用也今云



んぞ〜云物古いたりあとも 義貞記曾成物語 是れおびき

以異阿兜也 盛衰記三ノ前二祀ス 又俗はあとおびきとも云物也 はたつあともあり 是れおびき

也唐韻は松小禪也 盛衰記三ノ前二祀ス 唐ふくは松中禪の類あり日

たあきまひ合ねとも和名抄は松ハ禪の下よそく物日

かのはふらぎハ禪の下かく物ある也 義理をあらざるべし

字収用する也

一 イマナ 今本ハ湯巻 ユマキ 同物也 イトユ音相通故ユマキヲイマキトナリ大江山ヘユ

ルニ同 東鑑卷四十二建長四年 壬子 四月一日ノ条ニ湯小袖十

具御大口一ツ唐織物御衣一領御朋衣一ツ ユカタヒラ 今本一ツ下 畧 又榮花

物語 初花ノ卷寛弘五年九月十日中京 云湯ゆどの酉の時とある

紫式部日記云此  
ゆどのハ寧おの  
君ハわくハゆハ

大納言の君ゆま  
きすく〜ともの  
をハあ〜すさま  
〜と〜とわ〜ハ  
あり

中 女房は白き装束とありゆどの〜とある

同ノ事也 云 禁秘抄 恒例毎日 早旦供湯 タシ 湯主殿官人奉行

近代多クハカサノハコゴ 釜殿運湯 中畧 凡禁中着湯卷上臈一人典侍一人也 スレケ

是候御湯殿故也 云 壺井義知力校正ノ禁秘抄ニ湯卷

ノ傍ニ白生衣ト注シタリ 貞丈云天子御湯ヲ召ス時上臈一人典侍一人典侍ハナリ

湯ヲアビセ奉ル也其白キ生宿ノ衣ヲ湯卷トモイマキトモ云也

一 舊記乃中小細と云事あり馬の子儀の事ありあは

たあきまの事也 たふささハ今 是服の類はあは細とある

またあきまの事とあり タイケンシヨウ 體源抄と云書は樂人豊原 家の書也 義家

朝臣の鑑忌の次第を記〜と云条より一細分二小袖

曾成物語云  
の事出〜とあり  
〜とあり  
ゆ〜ヤリ  
義家記よりやりの  
のあは〜とあり  
あは〜とあり  
レモフ〜とあり  
事ナリ

備後 素色 ともありはき細しとの事 檀鼻禪の事也馬の子徳よりあり

又殿中日記 嵯峨川新あや門 記 親元日記也 云寛正六年八月十三日御風呂御成御

借取上下一献例式以く てもす御湯かひひひ 以てはあり

ふるふれむ くら新調云 以はてはありぬんとの事也 以ては

以太布ニテ風呂袋 きのいの料あり 馬の子徳よりあり

一 ころ涼云 涼極のり真鏡大造物記云大射素襖云ころ涼

て五色は細筋をお せよふたり涼する事也云 筋核筋

也お せよとん間をせざらん事也

一 あらるり涼の事 古今著聞集 云あらるり涼の水干云事存

赤色は細筋をお せよふたり涼する事也云 赤い

備用扱云は ころ涼より 寸許より 尺許より 湯美白より 浴手盛衰記卷八 五以地縫云裁成 八紫ノ取除ノ唐 伎直書ニ前黄白 針綴着テは古今 著聞集卷十二 針綴あり

赤い 犬射

素襖のころ涼の事 又難太平記云今川家の笠云云 赤多を付

とあるハ赤より涼なるあり 女給ありやう也 婚入記云女佐り

あらるりころ涼の事 涼色はゆふあふす 汗衫の事也 童女

すの装 あり

一 古より女ハもろく出る時ふりつぎをする也 今も京大坂ある女ハ

う川きをする也 物語ありまきぬるつぎの女とありはひ

也 古のつぎハ白さむんの小袖あり 古も物語よりすきぬ引

う川きあり ありむんあるあふすきぬる也 今ハ色くは涼

てうけ付くのもあるやうなるも涼くも昔ハ両袖を頭の上

に垂り針のきくこと云後ありとも古も袖をさ

ころ涼の事 ありやうの ぶた也 古き後ハ袖を さけりう川きく ぶたなるあり

爲るうゝをあり  
 方ゆくニすけ  
 下ケテあくる也  
 ぬ氏すむふ  
 うぬがすれ  
 よかかり

岩間カ幸ハ  
 大猷院橋ノ由代  
 ノ幸丸

盛衰記卷十三前  
 ノ右將ハ御簾ヲ  
 半巻上テ大口ハ

げうのきうり古き後よるえう今もあ袖をさげうつら  
 也うのきの多りぬい帯の小袖はさきゆかあり形を考へた  
 裁也きんをいふうかか金糸をうす為也江戸も今も  
 川きすの事あり昔岩間ハらゆト浪人十八歳ありト松平  
 伊豆守を恨む事ありト袖いふうかつきをあう迎付き女  
 のまあり伊豆守を討んとせトあはる加関東よりうのき  
 を持あらね也依りかかあはる物を用ひき女あはあ  
 三笠をうりうり由ある老人の物語トも也 カツキノ圖  
末ニアリ  
 一 禮服を忌せむるを 礼服といふは小袖の上  
あすのあやのうのす也 せやくとる事じや  
 うあハ白衣と書也公家家の平服ハあがうをうり上ハ カミ

カリニ白衣ニテ  
 長押ニ尻カケテ  
 トアリ

ナラレ  
 衣衣より小装束を忌ハハきぬきうはう後を忌まふ  
 あり小袖ハ白小袖也せやくとる事じやあはる  
 ぬきを忌つて衣衣を忌ハあはる也衣衣を忌ハあはる白小  
 袖をあはるす白 ヒヤウコエ 衣と云也武家よりあはる  
 うづり袴を忌ハうの上あはるすあはるうづり袴も忌ハ  
 ずトあるを白衣と云也肩衣袴の村ハ肩衣を忌ハせす袴  
 づりあはるうづり衣也今村ハ袴も忌ハせす小袖袴も  
 白衣といふあやもり也又腰の物さぬを忌ハあはる  
 いもあやもりの也  
 一 そのほかの小袖ト云ハ年中恒例記八月朔日の部ト云女

雜記三

二十

義経記ニ法師  
がらまきまびき  
をいざねハまら  
ゆりくしうら  
おひさるよま  
つちやうとぎん  
ゆりくしうら  
ゆりまきんく  
とありまゆり  
やうとぎんもまら

中府あまき世服用也同深付文をあき清くる小袖を  
あき也今月中あき文をあき清くる小袖を  
の也藍あき清くる小紋の小袖の事也  
一 だきんの事 蠶川記云頭巾は免ひ多う川きひの毛あき定り  
けりしひの頭巾は形め向きあきすの古く何事あ  
あき清くる物あき清くる頭巾も今の世のすく頭巾あ  
を用ひしる也

一 あらまきだきんハ判装者のかき頭巾也源平盛衰記太  
夫坊覺明ハ首丁頭巾ありあきの禮をあき又首丁頭巾ハ  
あき清くるあんどトあり又平家物終土佐坊昌俊黒革

やうとぎん中  
一物と判装の  
のうらり物也  
考判装の考也

禮あき首丁頭巾をあき清くるあり彌念年中行事成氏の陣  
の事を記し御力者或ハ十人或ハ八人又ハ六人何も出長頭巾  
ト黒布あき清くるあり清くるの方をハ廣くハ中一不きうら  
るあき清くる白き素袍は清くる小袴引あ付たきりあき清  
る首丁頭巾ハ出張頭巾も同物也又頭長頭巾も書也出陣  
乃時あき清くる物あり常は用ひ物ありあき清くる也

貞丈按ちり  
衣ハ綫者の服  
ナキ人のき  
物ハあき清  
其の長氣は  
一のきぬあ  
あけきは清  
きりすうら  
なあき清

一 今世七月廿八日朝白七月十五日必白くすの事  
事ハあき清くる白き素袍ハ由旧記は見え多き  
宗五大双依  
外旧記はあき清くる五月五日必白くすの事  
有云あき清くる白き素袍ハ由旧記は見え多き  
南時五月廿八日朝白七月十五日必白くすの事  
手一

雜記云



唐衣を長すり也  
 うりたるもの  
 の服あるに備へ  
 又及びす  
 うらひらき  
 也うらひらき  
 色を分とする可  
 宗五大双紙、男  
 若き若老く  
 白きうらひら  
 合ひ  
 一本男若老の  
 白くうらひら  
 らあり

用ひ成へ五月廿六に限り深く  
 一先えさる也白を用ひ  
 小袖うらひらき  
 火の色赤し  
 阿麻呂は袷の  
 を和式  
 花色は  
 考考は  
 奉公覺悟記云九月九日より小袖を  
 小袖うらひらき  
 花色小袖を用ひ  
 を定らるる  
 一旧記は紋をぬ  
 同一事也紋を別  
 のき  
 一信金と云  
 をつ  
 金襴也  
 見  
 赤  
 送死

小袖うらひらき  
 花色小袖を用ひ  
 を定らるる  
 一旧記は紋をぬ  
 同一事也紋を別  
 のき  
 一信金と云  
 をつ  
 金襴也  
 見  
 赤  
 送死

金の金花字ハ子の字を書くとくあやまりて金の字が書くとく  
形とく一信金ニ品也

目録ノ目ハ双六  
ノサイノ目也

一目録と云く形  如長目の形の如く也是をいづくもちど又  
ハあはてて深も也是を深も云く縁をつまみあげ糸も結  
て深て後糸をいづく糸のあはてて白く感々たの如く  
目の縁もあはて目録と云也右に目録の深物白星もくは  
ありて鹿の子花も皮も似てあはての如くも云也うりて  
麻乃子也又佐々木氏の家ハ紋をよ川名目ひと云と云  
の目録を写り並へある如四目録と云也 志が目録の  
の幸末記  
一村濃と云く地をバ落  村雲 ムラウモ のこと何色もて色

三浦家ノ紋きむ  
りじりハハ別ノ  
り也末記ス

夫木秋快云法師  
ノ紋書田原ノ  
印ハ山のヨシヨシ  
をへくはちむねむ  
らと云ん  
又夫木秋云みん  
あはて秋くわハ  
いとよりあはて  
はどあはてハむ  
らと云ん

を濃く深も也紺むと云紺色を云村濃を云也濃と云  
は端ハ煙のいづくを川す也 紫のあはてとあはて地をうすあはて  
一 是をいづくハ何色もて色も上の方色をうすくすすその方を  
ハ濃く深も云く也禮の紅すを云紫すを云右の云也禮ハ  
をバと云遠くもあはてその趣ハ軍用記もあはてするくハ畧と  
一 顔 ハツケタ 顔と云く一 條の事也今時あはて深もく物也大志  
何りを云あはて一 顔 ハツケタ 顔の二字をきくはあはてあや  
り也く一 顔と云くよむ字あり  
一 婚禮の時より君の衣装もをきくはあはてあはてあはて  
さあやを云す ハツケタ 婚入記ありきくはあはてあはて

貞丈云顔顔のニ  
字ヲキクトデト  
ヨムニモ子細ア  
ルベシ顔顔の云  
かう深ハ水干長  
裾あはてのきくは  
づのあはての如く  
九くあはての如く  
取ハハハハハハ  
くもあはての如く  
加顔顔を深もく  
をきくはあはて  
いひあはての如く  
物あはての如く  
顔顔ノ二字ユハ

夕トヨム本本也  
 ヌワ夕トヨム  
 夫本抄修理太夫  
 頭季々ノ秋  
 半ひにゆき  
 の帯をまきあ  
 津よりま川ふ  
 又夫本抄よし  
 あふんか  
 ゆわちあ  
 葉のあらん  
 ハまひのあ

も初りころ故あきとも今た子後果をあふす也今人の  
 まる事をも書さあくるも也後よ人のあふぬ世の中よ  
 りころ財の事也古くもは此の人の事初る事記  
 ころ今用は五事多

式にありありありありあり

さいさい  
 の紋  
 め



さいさい  
 の紋  
 め

さいさいといふ名を多げころより城禮は紋を用也

也蓋も水草のりほびありまげり物をも実も堅き物也依

祝も用也籠子の口を菱形の色もはた也

襦袢の二字ありきそのむ也昔小児乃衾の事也

帖平絹の襦袢一帖を袖む

も縫ころ紙云今小児の大小役の用も小児の腰より下

巻き並り物もあつたころ下は袖何もあつたころ物也徒

生記も襦袢とあつたころは是もあつたころ也

赤子の衣服を筒袖と云る袖のり也

あけぬか今ハ  
物ノ乃あしと也  
夫木根ニ云源仲正  
ノ物、あめハ  
けめゆのうと思  
ひ、そまかうり  
はあ人ハあの  
事、

わらうせあぬ帯  
紅又ハ唐紅ト書  
也唐土ヨリ傳  
レト云物あつハ  
あ、只これあ  
のこき色も尾  
ミあ、あつた  
一ト云也別ト  
られ、あ、あ、  
也、う、茶、  
茶色の、  
ら、ら、  
同、也

一帯の小袖のどららウツギ縫也キソムル産衣ナヤウエを象初ハジメを象衣の根ネ云

一あげ名ナゆびユビハ法レテ同法メユイト書ク也同法のハ用供ヨウキョウをあげアゲハ海ウミするをスル法ハフ

一因法インハフの禮レイ虫ムシ垂シあアハハ女メ子コ也あまき、す

一みどり色ミドリイロト云ハミドリ色イロのミ也ミドリみどりミドリト云ハミドリ色イロのミトす

一き也キヤト云ハキヤ色イロのキ也キヤき也キヤト云ハキヤ色イロのキトす

一これあコレアハ赤アカ色イロ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカトす

一ハ紅ベニ乃ハ色イロ也ベニト云ハ紅ベニ乃ハ色イロのベニ也ベニト云ハ紅ベニ乃ハ色イロのベニトす

一うすウス也ウスヤト云ハうすウス也ウスヤト云ハうすウス也ウスヤト云ハうすウス也ウスヤトす

一うすウス也ウスヤト云ハうすウス也ウスヤト云ハうすウス也ウスヤト云ハうすウス也ウスヤトす

一あアハ赤アカ色イロ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカトす

也

一もあモアト云ハ赤アカ色イロ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカトす

一うすウス也ウスヤト云ハうすウス也ウスヤト云ハうすウス也ウスヤト云ハうすウス也ウスヤトす

一真紅シレント云ハ赤アカ色イロ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカトす

一帯オビの似ニセ物モノあアハ赤アカ色イロ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカトす

一女メの帯オビト云ハ赤アカ色イロ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカトす

一赤大坂アカオオサカあアハ赤アカ色イロ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカトす

一あアト云ハ赤アカ色イロ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカトす

一あアト云ハ赤アカ色イロ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカトす

一あアト云ハ赤アカ色イロ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカ也アカト云ハ赤アカ色イロのアカトす

地下ノ女ノウチ  
カケスルハ公家  
ニテ女房ノ小ウ  
チキト云フモノ  
ヲウチカケタル  
蘇ヲマナブモノ  
ナリ





よすり也左右乃  
照不し引立り  
右の開き引立り  
左の引立り  
さゆゆ

のくしおけく肩をぬいて腰に海巻あり  
貞丈三陸東  
用ハハ

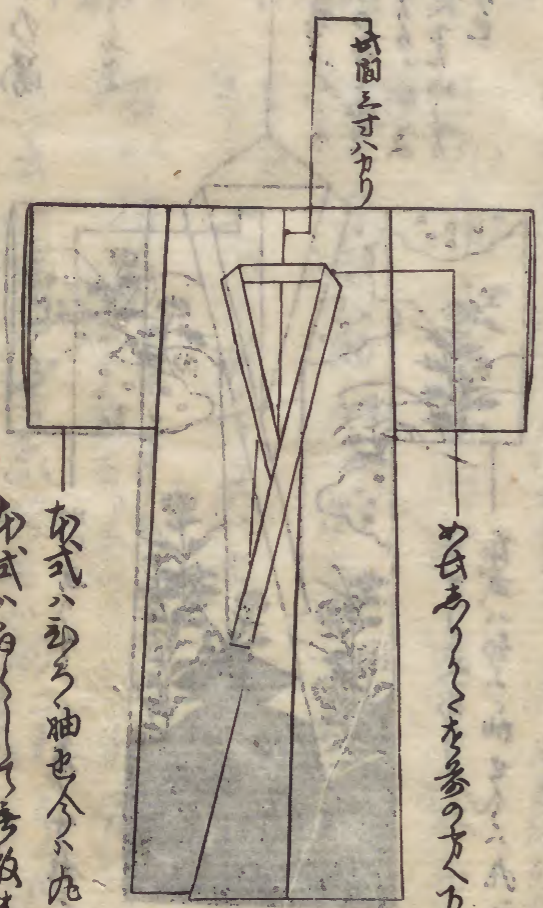
一 寶はくしと云物を小児の衣服のまぐりあぶ付多古き  
あき事也寶つくと云古書あきと云物あり近世ハ少袖  
まき何まきを祝ひ物必寶をを用也

一 ぬき海ハ上古夜うぶりに病物也この物今のよぎのき  
あき後子  
出来く物也ふすむといふ字ハ念結字也雅亮装束扱云海  
ぬす海ハたをあるのカ袖タリハ尺又ハの幅五

二 物幅也頭の方ナリの方計くられあるの物りいフトルスルふより  
二物あぶ計と云るま計は計ぬき也頭の方ナをく計志

海一物計と云るま計は計ぬき也頭の方ナをく計志  
中計ハ計と云るま計は計ぬき也頭の方ナをく計志  
口角ありぬきをく計は計ぬき也頭の方ナをく計志

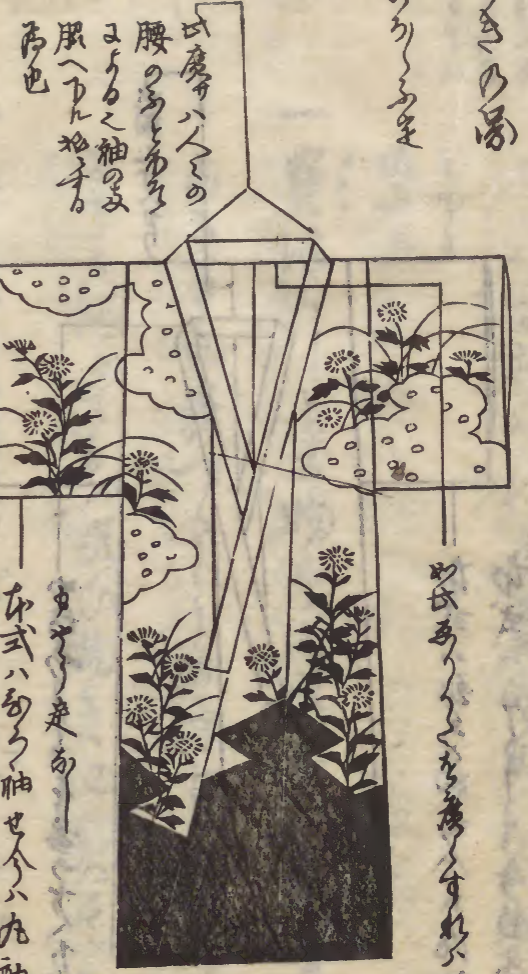
一 加川まのあたの



女用五分ナリ  
女式ハ白く油也今ハ丸袖ナリ用也  
女式ハ白く油也今ハ丸袖ナリ用也

色ハ白計今計ハ丸袖ナリ用也  
女用五分ナリ  
女式ハ白く油也今ハ丸袖ナリ用也

ついでに...  
...



...

一...をき...物...  
記...  
一...天子の御紋...  
...

自順故実園書條  
五月五日...  
...

元来ハ御装束の織紋あり...  
...

雑記三

三十一

ばま織うら也一幅の徑糸七る六拾筋ニまよする魚子止る  
 松細はうのくき布也右幾くをうら皆たけ糸の分  
 量也一くむおのを一よくとま也糸は幾へ返り村の伺  
 也布の細きく兼きくふく幾も替も也弓馬故実云方袋  
 の事中畧布八十九と云布也さうかうふ世者くあり布く  
 只お布のうのくきを聞へーと云

一 折り色の衿とさう日記は有折り色とく徑糸タテと緯糸ヌキと  
 色を替へて折りくる也多とくは紅梅の形也紅梅タテハウ  
 紅糸く聞書云織色の衿あふありと袖くをまぼへ  
 云御供故実云衿の事く留可然は近年折り色の

貞順衣裳次才云  
 つらの花とすハ  
 下襟を先ゆは  
 了すし除く板  
 上をこきゆ  
 にはいろく多  
 をすハゆめ十  
 レ氏其地色ハ色  
 タアルベレ其上  
 ノ除タル形ワレ  
 カ花ナルヘレ

衿ありバウありめハ方々折り色はあり共其ハ  
 御制禁まふつる姿代ハゆめハ物とぬはありバウ  
 有志ありゆめ有角ゆめ不可然く折り色とくハ衿りぬ  
 きり折り色ある

一 花とすハつら花とすハを界くハ花とすハ  
 うも也花ハの花ハ赤き物ある如紅糸を染くるをつら花  
 とく也物をふはけそめずとあるは色にをぬくいろさり  
 ぬめくを流ドが花と云也とくは花と云とつら

かまふ花ハハ 花ハ土佐ガ  
 繪あり歌ハつらとあり



職人歌合ノ奇也  
其口寺ノ職人奇  
合トハ別也

熊谷蓮性法師ガ  
身  
古の體ハカ  
ウミコトノ風  
ウミコトノ風  
ウミコトノ風  
ウミコトノ風  
古今狂歌集ニ見  
ユク

春風桂川のあめをくぐりて女の後の秋ナリ 袂もは 花を折る近衛信房

一 紙衣も古より あり源平盛衰記卷四十八法皇大原 云々思へり

夜更裏ツカ たる老尼の紙衣ラウニ のよき濃き墨際スミツメ の衣をぞよめ

りくゆえに又日条 白小袖の怪アヤシゲ ありは麻アサ の衣紙キヌカミ の御衣ミツメ

より具へり竹の掉サホ は知れり云々 是ハ平家ニヒテ後建礼門院大原の

勇我物語卷十二云さるるあど三人ハうち川ねうちあさの衣紙ウチキ のあす海をうくまうけり

一 樹大樹小樹衣袖多し車は装束の部ニ記す

一家の紋ウチキ と云車源平盛衰記卷三十六熊谷 熊谷カチ 禰カチ の虫垂カチ 家

の紋ありは旭ハト は寓生ホヤ をと總ソウ たり云々

一 あさき色は二あり浅黄アサキ と浅蔥アサギ は二色也先ツ 浅黄アサキ と

黄袍ヲ黄衣ト云  
ナリ

うす黄色也無品親王キイロ ムホンシンワウ 其袍ゴハウ の色は只ただ を用もち たる黄袍クハハカ と云

以事也無品親王のうす色は位位の部ニ記す 浅蔥アサギ と云はうす青也水色ミヅイロ と云

白襖シラアラ と云は襖アヲ ハ青あり襖アヲ ハ赤ハ装束の名本也中古以赤青の采ノ代リニ用はあり

女ドの事也白 の色ハまじり白ありは

葉色アサギ はうすきがゆゑありは浅蔥アサギ と云也中古以来浅黄アサキ と

浅蔥アサギ の差別シヤバツ をあはすは

の色のよき遠くは

一 白シラ 色はうすきは比ヒ 本の糸イト ありは

色ハ萌木モエキ 色と書也萌黄モウキ 色と書ハあやまり也本の字

用へりもえきを

禁裏神事の時  
反せらるる物を  
こらもとる物ハ  
白布山あめの  
系る色くのり  
こけすりたる物  
あり

あめまひすり  
ハ奥州信夫郡  
あめの面の石  
布を打きせり石  
のきめをすり  
たる物あり

色をけりしりたる色ありありたるを好くみたりと云也

一すり衣コホエの事ありぬもぢぢり花ぢり衣あり歌みよあり

是ハ板草木花鳥あり形をエリキサ彫刻して丸丸のり紋布ハ

色とり多形ありこの上を打つるのを付る絹布のきりり

おるぬ為也のりをあきくし付るその上ハ布又ハ絹あり

をりぬりよりおしつるおるこのお高なる也それを

藍アイ花葉又ハ色々の花を銘イす布ハ色とり布絹あり

面を摺るばもあ花もの様ありと云也

一鳴ずりの虫盛衰記卷五小松  
教訓の巻よりと云鳴虫スサキ洲の形を前記

めくすりたるを云也

今母節を鳴るを鳴るといふなり  
鳴るはるはるの鳴るはるはるなり

一うらむり乃己色うらむるあり世の服のきりりたる事古記

何り曾我物語巻九兄弟  
出立ノ条十鳥がそ花衣の出立まら白きり

ひみちいせあうかきりりむちぢりの虫垂乃袖を結

ぶる肩よりけ中畧五鳥り装束ありあつせ小袖の服あり

らうきりりを狩場の用意ありあつりりりりりりり

あられの蝶をニツツあむり書りりりりりりりりりり

あつりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

のつきりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

け帷子の服きりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

虫垂の下はまらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

一 海きき名とろく留ありも布きくもうくく巻くも上を細き  
 儲ありくくくきく何色ありも薄く後巻くる儲をさけがき  
 くるあさハゆくあり也 紅巻保の事 装束部は記す 同の也  
 夫木抄の家集藤花 源仲正の歌 巻保のよきをねぬ  
 むくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 乃はるがねよよねくくく付き花さきくくくくくくくくくく  
 名の衣をきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一 ゆりー名とろく紅の色をくく也 深紅とく紅の色をくく保  
 く黒くありくくくハ桃色也 桃色とく平人の思はゆきを種  
 割せくく也 紅色をくく対して常紅 紅保をゆのく色  
 とく也 くれ名とろくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 夫木抄の歌 久安百首有芳門院ノ安藝 山をせき  
 流ぐハハ保服 ぬきくくくくくくくくくくくくくくくく  
 山をせきハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ  
 下ドの紅ありをくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 一 きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 三ツ引ヲ上ハ黄色中ハ紫下ハ紺色をくくく也 さいきんを黄  
 紺とく也 紺をコウ云事 紺屋ヲ  
 コウヤト云おあ例あり





延喜式太政官式  
ニモ見

一時服乃名目上古より有る續日本紀卷十二云聖武天皇

天平八年冬十月戊申施唐僧道璿波羅門僧菩提寺時服

○禄令云凡親王年十三已上皆給時服科春施二足系二

約布四端鍬十口秋施二足綿二屯布六端鍬四挺と云

えくろ

一八丈絹束鑑ニ見タリ宇治拾遺ニモ見タリ是ハ今ノ世八丈

嶋より出る物ありあるは八丈綿ハ伊豆の此条早雲入

道の時名出り渡海せし也されハ古代より傳へぬ嶋之古

書に八丈綿と云ふ是足の長サ八丈ハ織る綿の品あり

あり

早雲入道八丈嶋は渡りしハ後土御門院ノ  
長享元年の也北条五代記ニ見タリ

宇治拾遺物語卷一

六丈細布くろふ  
物あり下ニ記す  
庭訓往來ニ尾張  
八丈トアリ注ニ  
綿也トアリ

云 才十八条利仁 草薙殿ノ条ニ 當りハ八丈と云ふぬあり皮子と云ふにハ

又卷ニ 才一条大太所 盗入ノ条ニ 八丈と云ふ物ありありと云ふぬあり

わくも出たりありと云ふ物ありと云ふ物ありと云ふ物ありと云ふ物あり

送御幣物美紙拾帖八丈綿二足右奉送如件治承五年五

月十九日參河御目代大中臣以通同卷十二 建久三年 十二月廿日 上品八丈

絹六尺代百廿文 各廿文 ○庭訓往來云加賀絹丹後精好美濃上

品尾張八丈信濃布常陸紬ト見タリ八丈綿ハ古尾張ヨリ出

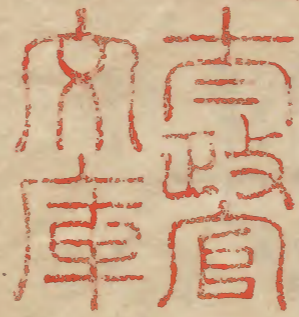
シ也其一疋ノ長サ八丈アリニヨリテ八丈絹トハ名付シ

ニヤ

一望陀布一云ハ古代上總國望陀郡ヨリ 調物ニ奉リシ布也

雜記三

三十四



延喜式縫殿寮式云新嘗會御服中畧望陀布二條〇和名抄卷十

二類望陀布今按本朝式有庸布調布調布讀豆ツキ岐乃沼

能ノ又有信濃望陀等名望陀者上總國郡名也其躰與他國

調布頗別異故以所出國郡名爲名也

一帖タマシキヌマキキヌ絹卷絹の事平らたつるを帖絹と云此を

卷物と云ぬ

一六丈細布と云ハ一疋の長サ六丈あり小也今昔物語卷二十二觀

の村盜賊を助け門乃服カワラは皮子を二ツあがり現上人在俗

きつカふ一ツの六丈の綾十疋黄八丈十疋青錦百兩入れたり

今一ツは白き六丈の細布十疋紺布十疋入れたり

